

平成28年度 入学試験(2月1日実施)

国 語

[40分]

[注意事項]

1. 試験開始の合図があるまで、この問題用紙は開かないこと。
2. 解答は、すべて解答用紙に記入すること。
3. 問題は1ページ～7ページの合計7ページあります。
ページが抜けていたら、すみやかに手を上げ、監督^{かんとく}の先生に申し出てください。
4. 解答の際、句読点などは字数^{ふく}に含むものとします。

東京農業大学第一高等学校中等部

一 次の①～⑤の傍線部のカタカナを漢字に直し、⑥～⑩の傍線部の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

- ① 事故のゲンインについて考える。
- ② 経済学の本のチヨシヤ。
- ③ メイロウな調子でスピーチをおこなう。
- ④ 校庭のジユモクが成長する。
- ⑤ 係の人は、シキユウ集合場所に来てください。
- ⑥ 最近、詩歌に関心がある。
- ⑦ 平家物語は口承文芸の一つである。
- ⑧ おじは鉄鋼業をいとなんでいる。
- ⑨ 人の命に軽重の差はない。
- ⑩ 結果に対して自負の気持ちを持つ。

二 次の①～⑤の四字熟語の空欄に入る漢字として、最もふさわしいものをア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。また、四字熟語の意味として最もふさわしいものを、後の1～10の中からそれぞれ一つずつ選び、数字で答えなさい。

- | | | | | | | |
|-------|---|------|------|-----|-----|------|
| ① 空前絶 | □ | (ア 語 | イ 午 | ウ 期 | エ 五 | オ 後) |
| ② 大 | □ | 晩成 | (ア 氣 | イ 器 | ウ 機 | エ 記 |
| ③ | □ | 和雷同 | (ア 負 | イ 歩 | ウ 付 | エ 符 |
| ④ 千変万 | □ | | (ア 科 | イ 化 | ウ 可 | エ 家 |
| ⑤ 馬耳 | □ | 風 | (ア 東 | イ 等 | ウ 刀 | エ 当 |
- オ 頭)

- 1 言葉であれこれ説明せず、すぐさま行動に移すこと。
- 2 用意が十分に行き渡っていること。
- 3 人の意見を全く気にかけないで聞き流すこと。
- 4 物事の重要なこととつまらないことを取り違えること。
- 5 過去に例がなく、今後もないであろう珍しいこと。
- 6 大物になる人物は若いときには目立たず、のちに成功するということ。
- 7 状況が変化するたびに、それに合わせて喜んだり悲しんだり感情が変化する事
- 8 自分の意見がなく、他人の考えにすぐに従うこと。
- 9 事情がさっぱりわからず判断のつかないこと。
- 10 いろいろとさまざまなものに変化すること。

三 次の①～⑤の文章の空欄に入ることわざとして、最もふさわしいものを後のア～コの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号を用いてはいけません。

- ① 彼女の話しぶりはまるで□のようで、次々とよくしゃべる。
- ② □あの調子だったから、今回あなたが失敗したのは予想できたことだ。
- ③ □このような準備でどのような結果になるかは、□だ。
- ④ 涼しい秋の夜長に、こんな時間まで読書をしているなんて、まさに□だ。
- ⑤ あんなものを進んで選ぶだなんて、□とはよく言ったものだ。

- | | | |
|-----------|--------------|-------------|
| ア 灯火親しむべし | イ たで食う虫も好き好き | ウ 頭角をあらわす |
| エ 立て板に水 | オ 魚心あれば水心 | カ 毒を食らわば皿まで |
| キ 言わぬが花 | ク 残り物には福がある | ケ 一事が万事 |
| コ 他山の石 | | |

四 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

思想を持てば、思考の力はその分おとろえる。ものを考え続けるためには、すでに考えられてしまったこと(思想)を、そのつど打ち捨てていかななくてはならない。でも、ひとりですれをやるのはとてもむずかしい。だから、自分にかわってそれをやってくれるひとだけが、つまり有効な批判をしてくれる人だけが、哲学上の友人(「協力者」)なのだ。□A、真の友人を求めるかぎり、批判者を批判しつづければならない。

では、¹批判が有効であることの基準は何か。それは有効な批判が出てきた時点ではじめてわかることだ。有効な批判の成立そのものが批判の有効さの基準をはじめて作りだす。これは哲学的議論のひとつの特徴であり、^{※1}弁証法という奇妙な訳語で知られるダイアレクティクという語のもっとも深い意味だ。それはいわば、闘争の勝敗を決める基準そのものが、その闘争の中で生み出されるような特殊な闘争なのだ。それでもそれが闘争でないのは、その未知の基準を生み出すために、お互いが協力しあうからである。

たいていのひとは、議論するということを相手の考えを論破して自分の考えを弁護することだと思っている。政治的議論のようなものなら、もちろんそうだろう。□B

税といった問題についてなら、どのような思考過程をへてあれ、いま自分と同じ結論に達しているひとこそが自分の友人であろう。そして、自分と同じ主張を別の論拠から擁護してくれるひとは、最もたのしい協力者だろう。だが、²哲学においては、論拠がちがう同じ主張なんてものはそもそも存在しない。たまたま字面のうえで同じ結論を主張するひとがいても、彼は友でも敵でもない(もちろん原発や消費税についても哲学的に考察することはできるが、そ

これは結論を得るということに本質的な興味をもたない場合にかぎられる。

哲学の議論は、Iを持つ者どうしの通常の討論とは逆に、自分では気づかない自説の難点や弱点を相手に指摘しきさしてもらおうことだけをめざしておこなわれる。多くの経験した範囲では、大森莊蔵さんと議論したとき、彼が完璧かんぺきに哲学的であると感じた。大森さんは現在の自説が有効に※2つは論駁ろんはくされることにしか興味を持っておられないようであった。こういう純粋に哲学的な態度は、議論における公正な態度と誤解されがちだが、そうではない。実は、単に利己的なだけなのだ。哲学とはまったく利己的なものなのだが、幸いにしてその利は、だれも他に欲しがるひとがない自分だけの利であるため、あたかも公正な態度のように見えるのである。だから、哲学の場合、友人と論敵はぴったり一致する。同じ問いを共有し、協力してそれを徹底的に解明し尽くしたいと思う友人としか、そもそも敵対することができないからだ。それ以外の場面では、哲学はひとと論じあうべき理由はないし、Cほんとうは公表すべき理由さえないのだと思う。渡辺恒夫さんは『トランス・ジェンダーの文化』（勁草書房）のあとがきで、自分の独我論的問題意識を「黙だまって墓場へ携たづなえてゆこうと思っていた」と書いておられる。黙だまっていられたらなくなったのはほくのせいらしいけれど、それはともかくとして、哲学というものは本来、黙だまって墓場へ携たづなえていき、持ち主の死とともに消滅しょうめつしてよいものなのではないだろうか。Iは公表されなければ意味がないが、哲学はちがう。賛同者がふえることは、Iにとつては最も望ましいことであろうが、哲学にとつては本質的な意味はないだろう。

D 哲学には、公表することへの恐怖きょうふのようなものがともなうのがふつうではないか。清水の舞台から飛び降りたつもりで小声でつぶやいてみて、人々の反応を横目で見ながらうとといった段階が、どうしても必要だと思ふ。その場合でさえ、公表して、みんなに検討してもらえない部分は、やはり厳選せざるを得ないのだけれど。

哲学の視点から見ると、世の中で通用している常識的なものの考え方には、⁶上げ底があるように見える。たとえば多くの哲学から見ると、世間の常識は、この本でこれまで論じてきたような問題を飛び越こして、世の中を「個人と社会」とか「自己と他者」とか「主観と客観」という観点から見ずましているし、これから論じようと思う問題点を無視して、「よいことをすべきで、悪いことはすべきでない」という前提に立って平気でいる。

つまり哲学とは、他の人が上げ底など見ないところにそれを見てしまった者が、自分自身を納得させるためにそれを埋うめていこうとする努力なのである。だから、哲学の問いがみんなに理解される公共的な問いになる可能性なんてありえない。なぜって、その問いが問われないことによって世の中のふつうの生活が成り立っているのだから。そして、もし上げ底がきつちりと埋まってしまうと、自分にとつての哲学はそこで終わる。そのとき、問題は消滅し、はじめてIIの人（そんな問題ははじめから持たなかった人）と同じスタートラインに立てることになるのだ（『論理哲学論考』を書いたときの^{※3}ウィトゲンシュタインがそうだったように）。だから哲学は、結局のところ何が言いたいのか、というような形で、その趣旨しゆしを要約するなんてことはできない。だれかが哲学をして、結局のところ何かを言ったとしても、結局のところ

— 3 —

ろ言ったことは哲学ではないからだ。最初の疑問と、納得を求めてIIIするはだかの思考過程の中にしか、哲学はない。だから哲学に関しては、主張を要約して賛成したり反対したりすることは無意味だし、そもそも不可能なことなのだ。複数の哲学を比較ひかくしてその優劣ゆうれつを論じるなんてことも、同じである。はじめから問いを共有しない人には、その主張の哲学としての意味はわからないのだから。

（中略）

では、哲学は何の役に立つか。世の中のあらゆること（惰眠だみんとか泥棒どろぼうとか……）が何かの役に立つとしても、哲学は本来なんの役にも立たない。まさにその役に立たなさこそが、哲学の存在理由であり使命なのだ。役に立つとは、何らかの価値の存在を前提にして、その実現に貢献けんこうすることだが、哲学はどんな価値も前提としないことがゆるされる（IV）唯一ゆいいつの営みだからだ。そのことが、ときに哲学するひとになぐさめを与える。もし世の中で哲学が何かの役に立つとすれば、たぶん、ただそのことによつてである。

（永井 均『子ども』のための哲学』による）

※1 弁証法……哲学的な対話・思考の方法のひとつ。

※2 論駁……相手の論や説の誤りを論じて攻撃こうげきすること。

※3 ウィトゲンシュタイン……「1889～1951」オーストリア生まれの哲学者。イギリス・ケンブリッジ大学教授。

問一

空欄A、Dに入る語の組み合わせとして、最もふさわしいものを、次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア	A	たとえば	B	むしろ	C	そもそも	D	だから
イ	A	そもそも	B	たとえば	C	だから	D	むしろ
ウ	A	むしろ	B	だから	C	たとえば	D	そもそも
エ	A	だから	B	たとえば	C	そもそも	D	むしろ
オ	A	たとえば	B	そもそも	C	むしろ	D	だから

問二

傍線部1「批判が有効であることの基準」とはどのようなものですか。最もふさわしいものを、次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア 論争の中で相手を論破することにより、論破されてしまった人は、その考えに反対でも認めていかなければならないもの。

イ 哲学上の論争の中で批判があつたとき、その批判が有効ならばはじめて明確に見えてくる未知のもの。

ウ お互いの協力のうでで議論をする前にあらかじめ決められていて、議論するもの同士が話していくうちに忘れてしまうもの。

エ 自分に対する批判が有効かどうかを判断するために、あらかじめ用意しておいて、いざという時に相手に示すもの。

オ 闘争の勝敗を決める基準になるもので、闘争が始まったあとに外部から闘争をしている人たちに与えられるもの。

問三

傍線部2「哲学においては、論拠がちがう同じ主張なんてものはそもそも存在しない」とありますが、それはなぜですか。最もふさわしいものを、次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア 哲学の場合は、相手の考えを論破し、自分の考えを弁護することが大切なので、自分の意見を主張することはないから。

イ 原発や消費税など世の中の人が興味を持っていることを議論する場合は、同じ主張を持つ人は同じ論拠に立つことが多いから。

ウ 字面の上で同じ結論を主張する人は敵でも味方でもなく、考えていく過程で主張もずれていく場合がほとんどだから。

エ 哲学では、結論を見出して主張する一般的な議論とは違い、同一のものを考え、それを批判してもらい、さらに考えることが重要だから。

オ 哲学の目的は相手と全く同じ過程をへて同じ結論を主張することにあるので、論拠が同じであることが重要だから。

問四

空欄

I に共通して入る語を本文中から二字で探し、抜き出して答えなさい。

問五

傍線部3「純粹に哲学的な態度は、議論における公正な態度と誤解されがちだ」とありますが、どのようなことですか。最もふさわしいものを、次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア 本来は自分本位な考えでも、世の中を良くする目的で哲学をきわめ、考えを主張しようとする行動が世の中の役に立つので、利己的だとは思われずにすんでいるということ。

イ 自分の哲学的な問いを解明することだけを考えるのは自分本位なことだが、哲学的な問いの答えは、他の人がもとめているものではないので、他人からは自分本位だとは見られないということ。

ウ 哲学自体は利己的なものだが、哲学的に考えて議論をした内容は、すべての人にとって平等に役に立つことなので、哲学者が個人的な興味でやったことでも世の中の人々に許されるということ。

エ 世の中の人々は、哲学の内容自体は利己的であり、哲学者個人の意向が強く働くと考えますが、それ以上に世の中で話される経済や社会についての人々の主張の方が横暴なので、誰も気にしないということ。

オ 哲学は、同じ問いを共有している人とは対立する利己的な面を持っているが、それを前面に出さず、自分の公正さを見せびらかすように、正統性をうたえて世の中の人々に認められているということ。

問六

傍線部4「友人」とはどのようなひとですか。本文中から十二字で探し、抜き出して答えなさい。ただし、形式段落の第一段落、第二段落の中から探して抜き出すこと。

問七

傍線部5「清水の舞台から飛び降りたつもりで」とはどのような意味ですか。最もふさわしいものを、次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア むだとはわかっていても挑戦しようということ。

イ 本来はやりたくないことなので、おそろおそろの取り組みこと。

ウ 人々の目を気にして恥ずかしさをがまんしようということ。

エ 思い切った大きな決断を下そうということ。

オ 才能がある人でも失敗はするということ。

問八 傍線部6「上げ底がある」とはどういうことですか。最もふさわしいものを、次のア、オの中から選び、記号で答えなさい。

ア 世の中の常識的な物の見方では、すべてを善悪で判断していくが、善悪を越えたところに常識を探すということ。

イ ふつうの人には見えない常識を形作るスタートラインがあるが、哲学者にはそれが見えており、考え始める位置が違うということ。

ウ 物事の善悪や、個人や社会などの対立的なあり方を大切にする事で、今まで問題がなかったことの中に問題点が発見されるということ。

エ 世の中の常識的な物の見方を越えて、哲学的に考えたとその奥に問いが存在するという事。

オ 世間が問題だと考えることを飛び越えて、ふつうは目をそむけるような出来事こそが社会的な問題だと考えるということ。

問九 空欄Ⅱに入る語を本文中から三字で探し、抜き出して答えなさい。

問十 空欄Ⅲに入る語として最もふさわしいものを、次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア 一挙兩得 イ 朝令暮改 ウ 意気消沈

エ 右往左往 オ 羊頭狗肉

問十一 空欄Ⅳに入る文として最もふさわしいものを、次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア すべての人が共有できる イ すべての生活が豊かになる

ウ すべての価値を問題にできる エ すべての使命を忘れられる

オ すべての主張を一つにまとめる

問十二 本文の内容と合致するものは1を、合致しないものは2を解答欄に答えなさい。ただし、すべて同じ数字を用いてはいけません。

ア 哲学的に考えることは一人では難しいので、自分の考えに敵対する論敵の存在が必要であり、その人は論敵であると同時に哲学について語る友人となる。

イ 一般的に、議論することとは、相手を論破し、自分の意見を確立していくことだが、哲学でも同じように論敵を論破して自説を確立する必要がある。

ウ 哲学の議論は、自分の説の難点や弱点を議論によって打ち破ってもらったことを目的とするので、真の友人とはできない。

エ 哲学は自己の内面で考えて積み重ねていくものであり、ひとに対して公表して検討してもらうことは恥ずかしいことなので、やってはいけない。

オ 哲学が役に立つのは哲学をする人をなくさめてくれることのみで、本来なんの役にも立たないことが哲学の存在理由であり、使命である。

東京農業大学第一高等学校中等部
平成二十八年度入学試験（二月一日実施） 国語 解答用紙

氏 名

受 験 番 号

得 点

一

⑨		⑥		①				
		軽重			詩歌			ゲンイン
⑩		⑦				②		
		自負			口承	チヨシヤ		
			⑧			③		メイロウ
						鉄鋼	④	
					⑤		ジュモク	
						シキユウ		

--

二

漢字	①
	②
	③
	④
	⑤

意味	①
	②
	③
	④
	⑤

--

三

①
②
③
④
⑤

--

四

問一
問二
問三
問四
問五

--

問六

--

問七
問八
問九
問十

問十一
問十二
ア
イ
ウ
エ
オ

--